

Highlights

UNCRDハイライト

No. 64

2019
秋季号

[2019年1月~6月]

CONTENTS



01 [地域開発]

統合的地域開発計画

- 調査研究事業 中部圏持続可能な発展のあり方検討会

01-03 [環 境]

3R(リデュース、リユース、リサイクル)

- アジア太平洋3R推進フォーラム第9回会合プレイベント - 第5回3R国際学会(3RINCs)
- アジア太平洋3R推進フォーラム第9回会合

環境的に持続可能な交通(EST)

- 第15回世界交通学会(WCTR Conference)においてUNCRD特別セッション
- 持続可能でレジリエントな交通開発をアジアの都市で進めるための民間セクターの役割



04-07 [広 報]

- 一般公開セミナー
「地域で進める持続可能な開発目標(SDGs)2019」
- 第10回とよたビジネスフェアにブース出展
- キャンパスSDGs事業 みえ国際ウィーク2019「SDGs研修」
- 第1回UNCRD小セミナー



United Nations Centre for
Regional Development (UNCRD)
Nagoya, Japan

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



地域開発

統合的地域開発計画



調査研究事業 中部圏持続可能な発展のあり方検討会

【2019年2月8日 名古屋】

UNCRDは1971年の設立以来、地域開発を専門とする国連機関として、開発途上国の自治体職員や地域づくりを担当する人々を対象に地域開発の能力向上のための研修や調査・研究を行ってきました。2016年には、45周年記念事業の一環で、公開シンポジウム「UNCRDがつなぐ世界の知恵、中部の知恵～持続可能で強靱なまちづくり」を開催しました。基調講演では、レニ・モンティエル国連経済社会局事務次長補が、2030アジェンダの実現に、地域開発のアプローチが有効な手段であり続けることは瞠目に値するとして、中部圏の地域開発の取組みへの期待を述べました。

こうした期待にも応えるため、UNCRDでは、中部圏における地域開発の歴史から得られた教訓や地域開発のあり方を、引き続き国際社会に向けて情報発信するとともに、2030アジェンダやSDGs等の国際共通目標の達成に向け、中部圏の産官学に求められる取組みを探求するため、国土交通省中部地方整備局等の支援を受けて、2018年より本調査研究事業を開始しました。

第一弾として、中部圏のものづくり企業群の形成等の地域開発と、道路などインフラ整備の歴史的関係性を分析し、中部圏の経済成長メカニズムを検証するとともに、今後の中部圏の持続的発展のあり方を検討しました。2018年度

の調査研究結果は、「中部圏の経済成長と社会インフラ整備の変遷」と題したPPT資料にまとめられ、2019年2月8日、国土交通省中部地方整備局会議室にて、地元自治体、民間企業、学識経験者等の関係者の出席の下、中部地方整備局の担当者より発表が行われました。

まず、中部圏の現状については、古くから「ものづくり」をはじめとした産業が集積してきた地域であることがデータで示され、リニア中央新幹線等の新たなインフラ整備により、人口7000万人の「スーパー・メガリージョン」となる新たな可能性が示されました。また中部圏の経済成長と社会インフラ整備の変遷について、関連開発計画やインフラ整備の歴史を振り返りました。特に当該地域における道路ネットワークの整備による経済活動への効果は、沿線地域の製造事業数や製造品出荷額、物流施設の立地件数等のデータに基づいて検証されました。

発表後は、関係省庁や地元関係者とともに、今後検討すべき事項について議論されました。SDGsを視野に入れた環境面や社会面の指標の設定や、アジアEST地域フォーラム等のUNCRDの事業を通じた調査研究成果の発信等について意見が出されました。来年度以降も引き続き、調査研究活動を続けていきます。

環境

3R(リデュース、リユース、リサイクル)



アジア太平洋3R推進フォーラム第9回会合プレイベント － 第5回3R国際学会(3RINCs)

【2019年2月27日～3月1日 バンコク(タイ)】

3R国際学会(3RINCs)は、3R社会を推進する学術的な活動のプラットフォームとして設立され、政府間政策対話の場である3R推進フォーラムに科学的・技術的なインプットを提供することを目的としています。UNCRDは3RINCs国際科学委員会のメンバーとして参加しており、第5回

3RINCsの開催に協力しました。

本イベントはアジア太平洋3R推進フォーラム第9回会合(3月4日～6日開催)のプレイベントとして開催され、UNCRDは特別セッションで基調講演を行いました。講演では、アジア太平洋3R推進フォーラムとSDGsとの関連に

ついて、特にゴール11(住み続けられるまちづくりを)とゴール12(つくる責任つかう責任)に焦点をあてて解説し、研究機関、民間部門、公共部門などから参加したおよそ300名の参加者にアジア太平洋3R推進フォーラムとその成果を含む3Rイニシアティブについて紹介しました。さらに、資源効率とクローズド・ループ経済(新たな資源の投入を抑制して、閉じられた輪の中で物質を循環させる)の観点からみた3Rの具体的な実践や政策措置の事例を挙げ、アジア太平洋地域においてSDGsを加速させるにあたっては3Rの実現が重要であることを強調しました。



【アジア太平洋3R推進フォーラム第9回会合【2019年3月4日～6日 バンコク(タイ)】

UNCRDはタイ国環境資源省(MONRE)、日本国環境省との共催でアジア太平洋3R推進フォーラム第9回会合をタイ・バンコクで開催しました。本フォーラムは「自足経済に向けた手段としての3R—持続可能な開発目標に対する示唆—」をテーマに、3Rと資源効率が自足経済を実現するにあたってどれだけ重要であるかを中心に議論が交わされました。「自足経済」とは、天然資源の適切な利用が、よりよい環境、生活の質と安全の向上につながるという考え方です。

フォーラムには、39カ国からの代表(アフガニスタン、オーストラリア、バングラデシュ、ベルギー、ブータン、ブルネイダルサラーム、中国、カンボジア、デンマーク、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、日本、ケニア、キリバス、韓国、ラオス、マレーシア、モルディブ、ミクロネシア連邦、

マーシャル諸島、ミャンマー、ネパール、パキスタン、パラオ、フィリピン、ロシア連邦、サモア、シンガポール、スリランカ、東ティモール、タイ、トンガ、ツバル、バヌアツ、ベトナム、米国)、ハイレベル政府代表、関係省庁の政策担当者、首長及び地方自治体代表、専門家、国連を含む国際機関など、550名を超えるステークホルダーが参加しました。

参加者は、充足(自足)経済思想が3R政策やSDGsの達成でどのような意味をもつのかについて議論し、SDGsのゴール12においては、循環型経済のアプローチとして3R技術と官民連携事業(PPP)が重要であることを確認しました。

フォーラム会期中に行われたインドール3R宣言追加署名式では、参加した6都市の代表が自発的な「都市における

きれいな水・土壌・空気のためのインドール3R宣言」に署名しました。都市を対象としたこの3R宣言は、化学物質の適切な管理のために科学技術を進展させる努力が必要であることを認識し、都市をきれいで安全、スマート、レジリエントにするためのローカルレベルのアクションを求めるものです。今回6都市(セブ、コロンボ、界首市、カラチ、大阪、ブーケット)が署名したことにより、インドール3R宣言の参加都市は46都市に拡大しました。

フォーラムの成果として、3Rイニシアティブの重要な指針となる



「3Rと循環経済によるプラスチック廃棄物汚染防止に向けたバンコク3R宣言」が採択されました。本宣言では、プラスチック廃棄物の抑制と削減に取り組むにあたって、資源・エネルギー節約、環境保全、コストパフォーマンスの視点など、3Rと循環経済開発アプローチの様々なベネフィットが重要であることを確認しました。また、SDGsや昨今注目されているプラスチック海洋汚染の現状をふまえ、12のボランティア・コミットメントが提示されました。宣言の参加国は、現行法規制とのギャップを特定すること、新規の持続可能なビジネスモデルの構築に向けて様々な革新的ソリューションをサポートすること、プラスチック廃棄物の削減の

効果的でインパクトのある国際的な合意、政策、協力を強化することなど、具体的なアクションを起こすことに同意しました。この宣言を指針として、アジア太平洋における様々なビジネス展開・ソリューションの中で3Rを主流化し、官民連携事業(PPP)、企業の社会的責任(CSR)、拡大生産者責任(EPR)など、重層的な協力・パートナーシップが促進されることが期待されます。

また、本フォーラムに先立って様々な団体と共催で多くのイベントが開催され、本会議中のサイドイベントにも多くの参加がありました。

環境的に持続可能な交通 (EST)

第15回世界交通学会 (WCTR Conference) においてUNCRD特別セッション —持続可能でレジリエントな交通開発をアジアの都市で進めるための民間セクターの役割 【2019年5月28日 ムンバイ(インド)】

UNCRDは第15回世界交通学会の会期中、特別セッション「持続可能でレジリエントな交通開発をアジアの都市で進めるための民間セクターの役割—SDGsゴール11との関連」を開催しました。

セッションでは、途上国とその都市が持続可能でレジリエントな交通インフラ(バス・鉄道などの公共交通を含む大量輸送システムなど)に投資するにあたって直面している

財政的な障壁について議論が交わされました。さらに、そうした課題を民間セクターやその他のステークホルダーとのパートナーシップでどのように克服していくかなど、プレゼンテーションで紹介された官民連携事業(PPP)のグッドプラクティスに言及しながら意見交換が行なわれました。

セッションには、研究機関、政府機関、公共部門、金融機関を含む民間部門などから参加者がいました。



セッションの様子

広報



一般公開セミナー

「地域で進める持続可能な開発目標(SDGs)2019」

【2019年2月15日 名古屋】

UNCRDは、2019年2月15日に名古屋国際センタービルにおいて、一般公開セミナー「地域で進める持続可能な開発目標(SDGs)2019」を開催しました。

本セミナーは、中部地域の方々にSDGsについての理解を深めていただき、地域における取組みについて共に考えることを目的として開催しているもので、今回で3回目の開催となりました。今回は、SDGsを幅広い層の方に知っていただくため、SDGsのカードゲームを活用したワークショップ形式で実施しました。

前半はカードゲームを行いました。2～3名でチームをつくり、お金や時間を使いながらプロジェクトを行っていくゲームで、自らが実施したプロジェクトが世界に与える影響が見える化されることで、参加者は自分達の行動が世界にどのような影響を与えるのかを「体感する」ことができました。ゲーム後の振り返りでは、ゲームの感想や気づきを参加者同士で共有することで、なぜSDGsが重要なのか、SDGsがあることでどんな可能性が生まれるのかについての理解を深めていただきました。

後半では、参加者の今後の具体的な取組みにつなげていただけるよう、SDGsに関する賞を受賞した実績のある愛知県尾張旭市、福井県鯖江市、三承工業株式会社(本社:岐阜県岐阜市)からSDGsの先進的な取組事例をご紹介いただきました。尾張旭市からは、SDGsと市の「健康都市プログラム」を関連付け、その見える化を試みた取組みを、鯖江市からは「めがね」と「女性」という地域の強みを生かした多様性に富んだ参加型まちづくりや産業振興の事例を、そして、三承工業株式会社からは、低価格な注文住宅の提供という本業を通じて貧困や不平等といった社会課題の解決に取り組むとともに、社内の女性活躍推進や働き方改革にも取り組んでいる事例をご紹介頂きました。

今回のセミナーは、自治体、企業の方を中心に約60名の方にご参加いただき、参加者からは、ゲームを通して楽しくSDGsを学ぶことができた、具体的な事例を通じてSDGsへの取り組み方がイメージできた、など前向きな感想を多くいただきました。



セミナーの様子

第10回とよたビジネスフェアにブース出展

【2019年3月21日・22日 豊田】

2018年度のSDGs未来都市に選定された豊田市と共催で、「第10回とよたビジネスフェア(3月21日・22日)」に、ブース出展しました。今回は、SDGsをテーマに掲げ、「知る」「深める」「自分ごとにする」という3つのコーナーでブースをレイアウト、SDGsの概要について知って頂き、次に豊田市の取組みを通じて理解を深め、最後は「私のSDGs宣言」をして頂けるような流れにしました。

また、ブースの一角に、「持続可能な開発に向けた豊田市

と国連地域開発センター(UNCRD)連携の歩み」と題したパネルを展示しました。これまでの豊田市におけるUNCRDの研修受入実績(過去8年間で12か国245名)や、「国連・豊田市共催 持続可能な都市に関するハイレベルシンポジウム～人と環境と技術の融合～(2015年)」や「SDGs推進国際シンポジウム2018 inとよた～「つながる」でつくる持続可能な社会～(2018年)」といった連携事業を紹介しました。

ブースには、ヒューマノイドロボット「ムサシ」実機特別展示と併せて、2日間で延べ420名の方にお立ち寄り頂きました。UNCRDにとっても、地元民間企業へのSDGsの普及・啓発だけでなく、UNCRDと豊田市との連携事業を通じたUNCRDの活動のPRにもつながった有益な機会となりました。今後も、SDGs推進に向けて、豊田市との連携を進めていきます。



当日のブースの様子

キャンパスSDGs事業 みえ国際ウィーク2019「SDGs研修」

【5月27日、6月5日 三重】

三重県では、2016年に伊勢志摩サミットが開催されたことを受けて、2017年以降、伊勢志摩サミットが開催された5月26日～27日前後の2週間を「みえ国際ウィーク」と定め、国際的な取組みを展開しています。三重県庁から、若い世代にSDGsの概念や基本的な知識を知ってもらい、アクションにつながるような研修をお願いしたいとの依頼がUNCRDにあり、本研修が実現しました。

三重県とUNCRDの共催のもと、5月27日、6月5日の2日間にわたって、三重県内の県立高校三校(名張青峰高校、川越高校、四日市工業高校ものづくり創造専攻科)において、「SDGs研修」が行われました。研修には3校合わせて91名の生徒が参加しました。研修では、SDGsの意義や基本的な知識について学ぶと共に、カードゲームを通じて、

SDGsがなぜ必要なのか、どんな可能性があるのかを体験しました。研修後のアンケートでは、「SDGsについて楽しく学ぶことができた。」「パーム油の問題等、自分達も世界の問題の原因になっていることを知ることができた。」「小さいことでも、自分の行動が世界へ及ぼす影響を考えながら生活していこうと思った。」等の感想が聞かれ、彼らにとって世界の問題を「自分ごと」としてとらえ、世界に目を向けるよききっかけとなったことが伺えました。

UNCRDでは昨年度、地元の中部地域の大学生や高校生へのSDGsの普及・啓発を目的としたキャンパスSDGs事業を立ち上げました。若者の力をアクションにつなげていけるように、今後も引き続き活動します。



三重県立川越高校(英語インターアクト部)の参加者

2019年1月～6月に下記の会議、シンポジウム、研修等に参加し、発表、講演、講義等を行いました。

【2019年1月10日 名古屋大学】

名古屋大学附属図書館と同大学法学部の国際政治学三浦ゼミとの共催で実施されたSDGsワークショップにて講演「UNCRDの活動とSDGs」

【2019年3月12日 愛知県庁(愛知県三の丸庁舎)】

「あいちSDGsセミナー」にて講演「SDGsの意義と地域における推進方策について」

【2019年5月20日～24日 国連持続可能な開発オフィス(UNOSD)】

「アジェンダ2030とSDGsエグゼクティブ研修コース

(Executive Training Course for Policymakers on the 2030 Agenda and SDGs)」にて講義

【2019年6月21日 日本特殊陶業市民会館(名古屋市民会館)】

愛知県環境測定分析協会の「環境月間講演会」にて講演「地域で進める持続可能な開発目標(SDGs)」

第1回UNCRD小セミナー

【2019年4月11日 名古屋】

今年度UNCRDは、今後の取り組みや事業について意見交換を行う場の一つとして、UNCRDの活動内容に関連するテーマの内容をより深めるための少人数のセミナーを実施することになりました。第1回は災害リスク軽減をテーマに開催し、メインスピーカーに、政策大学院大学教授で、「水と災害に関するハイレベルパネル(HELP)」のコーディネーターを務める廣木謙三氏をお招きしました。UNCRDからは、環境的に持続可能な交通(EST)を担当する研究

員が、アジアEST地域フォーラムの活動とその成果、またSDGsとの関連について発表しました。

廣木氏は、この30年程で自然災害は急激に増加していて、そのうち水が関連する災害が95%であると説明しました。世界は20年(1995年-2015年)の間に災害によって2.7兆米ドルを失ったことを挙げ、災害は人の命が失われるといった人的損失だけでなく、国にとってもその経済的な損失は計り知れないと言及しました。洪水による死者

数のおおよそ70%は低所得、または低中所得の国々で占められていること、また、所得グループ別の統計においても住民100万人あたりの災害による死者数の60%弱が低所得・低中所得のグループで占められていることから、災害の影響は脆弱な国や所得層に大きいことが顕著であり、「水と災害」の課題は貧困問題と強く結びついていると解説しました。他方で、気候変動によって水関連の災害のリスクは世界的に増加傾向にあることは周知の事実であり、各国政府内においても災害によるリスク管理の重要性は高まっていて、世界の70%の国々は災害リスク管理は政府の優先事項の中でより重要になると考えていると説明しました。

災害リスク管理には備えとレジリエンスが重要であり、今後とも増え続ける災害とその影響にはグローバルでの対応が必要であると話しました。そのため、メンバーの多くがハイレベル政府関係者や国際機関等であるHELPの役割は大きく、世界レベルで提言を行うことや、投資と資金調達、災害リスク軽減のための科学技術開発と適用の推進、気候変動への対応など、HELPの優先行動について説明しました。

当日は、大学院生を中心に約20名の参加者がありました。今後もより良くUNCRDの活動を理解してもらえよう、活動内容に関連するセミナーを開催していく予定です。



セミナーの様子

国際理解 教育支援の推進

UNCRDは、中、高および大学、あるいは地域の様々な団体を対象に、地域の国際理解教育推進に積極的に協力しています。

2019年1月から6月に下記の活動を行いました。

■その他(一般対象)

- 3月8日/HAPPY WOMAN実行委員会 「HAPPY WOMAN FESTA AICHI 2019」において来賓挨拶

Highlights [UNCRDハイライト]

本誌掲載記事の詳細については、下記の国際連合地域開発センターまで

国際連合地域開発センターニュースレター No.64 2019年秋季号

編集：国際連合地域開発センター(UNCRD)
名古屋市中村区那古野1-47-1 名古屋国際センタービル6階
TEL:052-561-9377 FAX:052-561-9374
E-mail:rep@uncrd.or.jp
ホームページ <http://www.uncrd.or.jp/ja>

発行：国際連合地域開発センター協力会
名古屋市中区栄四丁目14番2号 久屋パークビル3階
公益財団法人中部圏社会経済研究所内
TEL:052-212-8790 FAX:052-212-8782